



子どもの声が 社会を 変えていく

聴き続けて
25年

チャイルドラインが日本で活動をはじめて25年が経過しました。この間、多くの先達の尽力のもとでチャイルドラインが継続できたことに深く感謝し、記念講演会を実施しました。たくさんの方にご参加いただき、チャイルドラインの原点を確認しながら、これからのチャイルドラインのあり方と子どものウェルビーイングな社会について考える時間となりました。



チャイルドライン25周年記念講演会
子どもの声が社会を変えていく～聴き続けて25年～
主催 特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター

チャイルドライン
これまでの
あゆみ

1996年～1997年

イギリスのチャイルドラインを訪問
(市民団体職員と国会議員によるチーム)

1997年11月

チャイルドライン設立推進議員連盟設立
(初代会長＝小杉隆元文部大臣)

1998年2月

日本で初めてのチャイルドラインの実施
(せたがやチャイルドライン／24時間 2週間)

1999年1月

チャイルドライン支援センター設立
(初代代表理事＝牟田悌三・清川輝基)

2004年

チャイルドライン支援議員連盟に改組
(現会長＝野田聖子衆議院議員)

2009年

全国統一フリーダイヤル運用開始

2016年

オンラインチャット相談開始

ロゴマークが一般募集により
決定したのは2008年春！



チャイルドライン支援センター
設立総会 (1999年1月)



チャイルドライン開設のための
セミナー (1999年7月)
(上段左＝牟田悌三さん、右＝清川
輝基さん、下段左＝保坂展人さん、
右＝澤畑勉さん)



夢メッセージ展
(2005～2007年)

【日時】 2025年1月18日 (土)
【会場】 国立オリンピック記念
青少年総合センター
【参加】 126名
【主催】 特定非営利活動法人
チャイルドライン支援センター

代表挨拶

社会が困難な状況に直面している中で、子どもの話を聴くことの重要性が再認識されていることを感じています。悩みを相談することに躊躇する子どもが多い状況を受け、昨年 (2024年) 11月こども家庭庁が「悩み相談の環境構築プロジェクトチーム」を発足させ、昨年末には「チャイルドラインは子どもの声をどのように聴き、子どもとどのように向き合っているのか」という意見交換の場をいただきました。また昨年度は「学校における子どもの聴かれる権利の保障」などについて、チャイルドラインからも積極的に子ども施策への提言をさせていただいています。

設立25周年の節目にあたり、野田会長はじめとした議員連盟のみならず、長年にわたりご支援してくださっている企業のみならずには深く感謝の意を表したいと思います。官民連携して社会を変えていくときにチャイルドラインが絵本の「スイミー」のように「目」の役割を果たしていきたいと思っています。

チャイルドラインの強みは、全国40都道府県70の地域に根差した活動であることです。地域のひとつひとつの団体が大きな財産であり、一緒に活動する仲間ひとりひとりとその家族のみなさんへの感謝もこの機会にお伝えしたいと思います。そして、これからもともに、どう子どもに向き合い、どう社会を作っていくのか、考えていけたらと思います。



チャイルドライン
支援センター代表理事

平井
貴美子

祝辞

チャイルドラインが25年間活動を続けられたことに、心から敬意と愛を届けたいと思います。国会議員は法律を作り、社会を変えることを担っています。法律を作ると物事は進みます。私は、これまでに全国の女性や子ども支援の団体との関わりを持ち、子どもに関する法律を策定したり改正することにも関わってきました。少子化や子どもの自死が問題となる中、民間との連携の重要性を指摘し、「子ども専一機関」であるこども家庭庁の設立にも取り組んできました。

子どもへの政策はこれまで「サイドメニュー」といった扱いで、日本の国会がやるべきは「経済・外交・安保」だと言われてきましたが、将来、それらを担うのは、子どもたちです。主役を外さずに議論をしていくことで未来は見えます。当事者、主体者の思いは大切です。こども家庭庁に対して、自分たちの思いを伝えられるチャンスがある今、チャイルドラインとして、どのような法律が必要かを提案していただけたらと思います。

これからもカウンターパートとしてともに歩み、子どもを軸にした平和なあたたかい日本を作っていきましょう。



チャイルドライン
支援議員連盟会長
(衆議院議員)

野田聖子
さん

講演



世田谷区長

保坂展人
さん

うにするためにどうしたらいいか考えていたときに、イギリスでの電話相談を知りました。日本にもこれが必要であると思い、24時間子ども相談ダイヤルの設置について与党合意を取り付け、イギリス視察を実現させました。その後チャイルドライン設立支援議員連盟が発足し、日本のチャイルドラインが始まりました。25年経ち、チャイルドラインは歴史となりましたが、自然発生したわけではなく、当時の国会議員や世田谷の関係者たちの「子どもたちの悲鳴を放置しない」「なんとか受けとめたい」「解決につなげたい」という思いが原点となっているのです。

私自身が「問題提起児」として学校からはじき出された経験が子ども時代にあります。教育ジャーナリストとなった1980年代は学校が荒れた時期で、子どもたちはなぜ荒れているのか、社会に何が言いたいのか、子どもに取材しました。世田谷の取り組みとして、留守番電話にメッセージを残してもらい、子どもの声を聴くという取り組みもやりました。もっと多くの子どもたちが「人」と対話できるよう



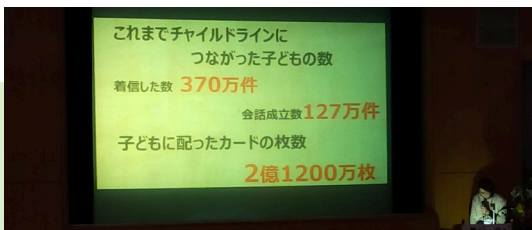
元文部官僚

寺脇 研
さん

国の方針として「生涯学習」が示された1987年、私は文部省の官僚でした。ボランティア活動も生涯教育のひとつ、「学び」の場です。当時、学校の荒れ、学校の詰め込み教育、「落ちこぼれ」という課題を国会議員が臨時教育審議会でも議論するなどがありました。その後の広島県教育長時代には、子どもからのFAXでの自死予告が入る出来事が起きました。子どもが特定できず、職員や学校の先生、保護者に、全県の子どもの安否確認をお願いしたことがありました。最終確認ができたのは夜中の3時。翌朝は「大人が自分たちに関心をもってくれた」ということで、子どもたちの顔がいつもより明るかったと聞きました。その後、文部省に戻り、小杉隆大臣もと、保坂さんとも関わりながら子どもの困りに寄り添えることが必要であると考え、保坂さんは民間の立場で、私は行政の立場で取り組み、それがチャイルドライン設立へとつながっていったのです。



歴代代表の紹介 (左より太田久美さん、松江比佐子さん、梅澤元彦さん、小林純子さん)



スライド「チャイルドラインの25年の歩み」



司会＝伊勢志穂
(支援センター理事)



パネルディスカッション「チャイルドラインの原点と展望」
パネリスト＝保坂展人さん、寺脇研さん、平井貴美子、ファシリテーター＝福本佳之 (チャイルドライン支援センター常務理事)